

都市計画マスタープランの見直しの経過

令和2年度

7月8日 第1回部会開催

8月

都市計画審議会
7月30日開催

9月10日 第2回部会開催

10月

都市計画審議会
11月2日開催

11月25日 第3回部会開催

12月

1月

2月

3月24日 第4回部会開催

都市計画審議会
3月29日開催

令和3年度

4月

5月31日 第5回部会開催

6月21日 市民意見募集（意見書数：352通 意見数：945件）
～7月20日

9月3日 都市計画審議会

<参考1>京都市都市計画審議会「都市計画マスタープラン部会」の開催状況

開催時期		主な内容
第1回	令和2年 7月 8日	・見直しの趣旨について ・京都市や都市計画に関連する動向について ・見直しの視点について
第2回	9月10日	・都市の将来像・都市計画の方針の拡充について ・方面別の指針・政策ブリッジの検討について
第3回	11月25日	・京都の都市特性を踏まえた「持続可能な都市構造」の実現について ・方面別指針の検討について
第4回	令和3年 3月24日	・都市の将来像及び都市計画の方針の拡充について ・方面別指針の検討について
第5回	5月31日	・都市計画マスタープランの見直し素案について

<第5回部会での主な御意見の趣旨>

- 全体を通して、これまでの議論を踏まえて分かりやすくまとめられている。
- 北部の魅力や知恵をいかして南部創造の伸びしろを伸ばすといった、京都の都市づくりの基本理念を盛り込んだことは重要。その理念を下支えする職住近接のまちづくりや都市圏の強化などに向けた取組をしっかりと推進してほしい。
- あらゆる施策が都市マスと連動することにより、各局が様々な視点の気付きにつながるとともに、財政状況が厳しい中でも各局の関係施策の必要性が増すのではないか。
- 方面別指針の策定により、市民の方がより身近にまちの将来像をイメージできるようになった。今後、この都市マスを市民・事業者、さらには庁内の関係部署や区役所にも積極的にPRし、都市マスに掲げた将来像の実現に向けて各種施策を実行していくことが大事
- 都市マスに掲げる将来像の実現に着実に向かっているか、短期的な成果だけに捉われることなく、都市全体の現状・動向を常にチェックし、コロナ社会や経済動向の変化にも柔軟に対応しながら戦略的に都市づくりを進めていくことが重要
- 産業用地創出については、農業上の土地利用と都市計画との整合を図ることが重要であり、今回、産業政策上の視点が示されたことは大きい。今後、地区計画などの手法も活用しながら誘導していくべき
- 「学術文化・交流・創造ゾーン」を「地域のまちづくりの推進」として都市マスに位置付けたことは大きい。財政状況も厳しい中、小さくても京都の強みをいかした良質な計画を拾い上げ、実現までスピーディに結びつけることが重要

<参考2>部会委員

氏名	役職等
板谷 直子	立命館大学客員研究員
◎川崎 雅史	京都大学大学院教授
兒島 宏尚	京都商工会議所専務理事
佐藤 由美	奈良県立大学准教授
島田 洋子	京都大学大学院准教授
須藤 陽子	立命館大学教授
中嶋 節子	京都大学大学院教授
筈谷 友紀子	市民公募委員
牧 紀男	京都大学教授
三浦 研	京都大学大学院教授
宮川 邦博	公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター専務理事
村上 岳	市民公募委員

(◎：部会長，五十音順，敬称略)